

劇団文化座公演  
佐々木愛  
女優生活60年企画

「ほれっ！多喜二！もう一度立って見せねか！みんなのために、もう一度立って見せねか！」

母

原作：三浦綾子  
脚本：杉浦久幸  
演出：鶴山仁

小林多喜二  
《藤原章寛》



題字：本橋佳園 写真：山本桃子

出演：佐々木愛 姫地実加 高橋未央 藤原章寛 萩原佳央里 市川千紘 神崎七重 小佐井修平

2026年5月13日(水) 18:30 ほくしか鹿鳴ホール 大ホール  
(開場 18:00) (大館市民文化会館)

主催：劇団文化座『母』を大館で観る会 共催：ほくしか鹿鳴ホール  
後援：大館市／大館市教育委員会／大館市芸術文化連盟／大館市商工会議所／JAあきた北／北鹿新聞社

<STAFF>

佐々木愛 女優生活60年企画

劇団文化座公演

美術＝乗峯雅寛 衣装＝岸井克己 照明＝古宮俊昭

音楽＝高崎真介 音響＝原田耕児

協力：三浦綾子記念文学館

# 母



<あらすじ>

「ほれっ!多喜二!もう一度立って見せねか! みんなのために、もう一度立って見せねか!」  
1933年、2月20日。小説家小林多喜二が特高警察によって虐殺された。拷問跡の残る遺体に、多喜二の母セキは寄り添い、ずっと頬を撫で擦っていた。貧しさの中、学校へも通えず、13歳で結婚し、懸命に働き六人の子を育てたセキ。そんな母の姿を見ながら、小林多喜二は小説を書いた。

貧しく虐げられた人たちのことを思い、書き続けた。

晩年、セキは息子多喜二を語る機会を得る。母さんを人力車に乗せて、この通りを走らせてやりたいと願った、多喜二青年の夢と愛の軌道――。

無学の母は、問われるままに語り始める……。



小林セキ 佐々木愛



小林多喜二 藤原章寛



チマ 姫地実加



タミ 高橋未央



ツギ 萩原佳央里



幸 市川千紘



三波 神崎七重



三吾 小佐井修平

市民の皆様へ

明治に大館釈迦内に生まれ、次男多喜二虐殺の悲しみを超えて、家族を近隣を愛し、慈しんだ『母』小林セキさんが、劇団文化座の舞台上で大館に帰ってきます。心に染みる舞台を大館の皆さんの明日の元気に、家族愛の源になればの思いでの企画です。

劇団文化座『母』を大館で観る会 実行委員会

観劇入場券 お問い合わせ先

劇団文化座『母』を大館で観る会

TEL:0186-43-3184 (代表 岩澤)

TEL・FAX:0186-43-0709 (事務局 島内)

ほくしか鹿鳴ホール

TEL:0186-49-7066

連絡先

劇団文化座『母』を大館で観る会

TEL:0186-43-0709 (島内)